名古屋的コミュネクトモデル
-喫茶店を繋がりの場として位置づけた名古屋市南区笠寺町のまちづくり-

指導教員　加茂　紀和子　教授　　西山　史晃

1．プロジェクトの背景と目的

名古屋市において喫茶店は地域コミュニティの場としての役割を担っている。しかし近年、喫茶店数は全国的に減少の一途をたどっており、名古屋市においても喫茶店の閉業により地域からコミュニティの場が次々と消失している。

名古屋市は全国的にみれば喫茶店への支出額は最も多く、店舗数も大阪に次いで２番目に多いことから、喫茶店を利用する習慣が生活に根付いているということがうかがえる。

名古屋市南区は市内で最も自営業で営まれる喫茶店の割合が高いエリアであり、喫茶店と地域のつながりが強く、地域コミュニティが喫茶空間に一部依存している状況も見られる。とくに笠寺町エリアは周囲に老舗の喫茶店が多く存在するが、やはり他と同様で後継者不在などの理由から、存続は危ぶまれている店舗があることも否めない。そこで本研究は、名古屋の特性としての喫茶店とコミュニティの関係を明らかにし、次世代にもつながる空間構成の提案を目的とする。

2．プロジェクトの流れ

本プロジェクトはまず名古屋市内の老舗喫茶店を対象に平面分析と空間要素のパタン化をおこない、より持続的な地域コミュニティを形成する方法を探る。次に、喫茶店を人が人と繋がる場として再解釈し、喫茶店における繋がりのパタンを組み込んだコミュニティモデル（コミュネクトモデル）を提示する。喫茶空間によるコミュニティの形成方法を踏襲した新たなコミュニティモデルを、笠寺町におけるまちの更新と重ね合わせながら計画することで、これまでのコミュニティから新しいコミュニティの形への移行をよりシームレスに繋ぎ、固有性のある地域コミュニティの形を生み出してゆく。

3．老舗喫茶店の空間分析

3．1．老舗喫茶店平面の類型

本プロジェクトは、事前調査として名古屋市における２０の老舗喫茶店から、持続的な地域の繋がりの場としての平面形態を探った。喫茶店内におけるコミュニティの場と利用客自身の生活の場に着目し、調査の結果、喫茶店平面における類型が６種類得られた（図１）。

3．2．老舗喫茶店の空間要素のモデル化

喫茶店の内部空間における意匠要素を採集・分類し、パタン化した（図 2）。その際、それぞれの要素が地域コミュニティの場で機能しているか、または喫茶利用客の個人生活の場で機能しているかによって分類した。これらを組み合わせることによって、名古屋的で持続的な地域コミュニティと個人利用の場の分節をおこなうことができる。

4．笠寺町の概要と現状

笠寺町は笠寺台地上に存在する木造住宅密集地が形成する二項道路以下の湾曲した路地が多数存在しているため、地域コミュニティの主要な動線が不明瞭である。また、笠寺町周囲には昔ながらの喫茶店が数多く残っているが、現状ではまちのなかに点として存在しており、地域の陰にかくれている。しかし、これらの喫茶店は今もなお地域コミュニティの

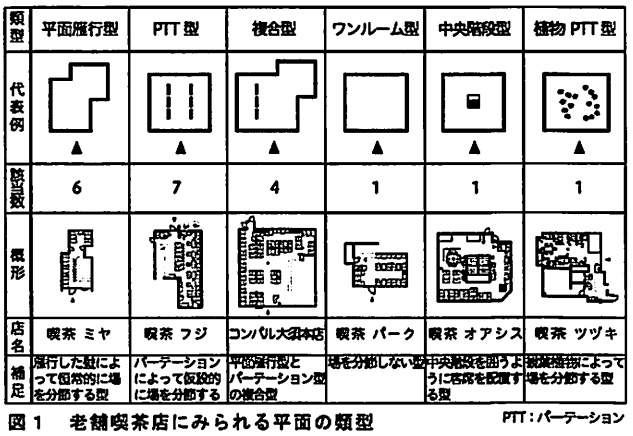


図１　老舗喫茶店にみられる平面の類型　　PTT：パーテーション

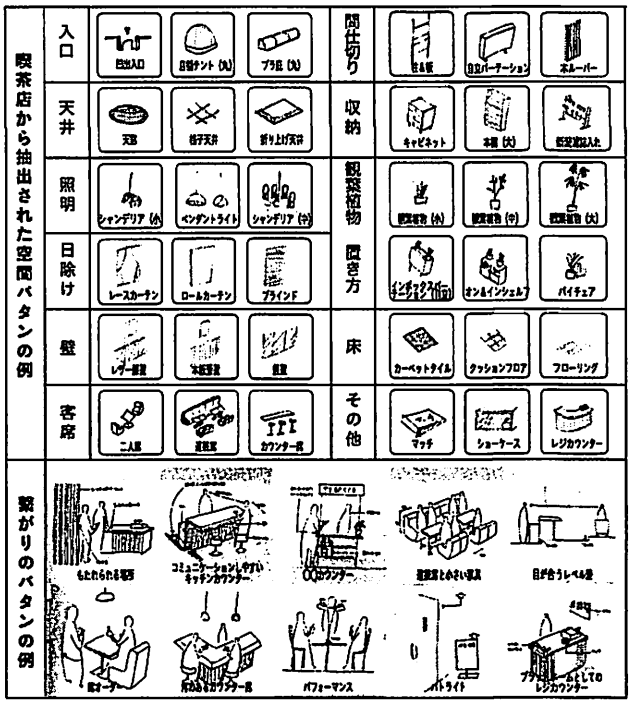


図２　喫茶店にみられる空間要素と繋がりの要因

Commu-nect as a Nagoya Model : Town Planning of Kasadera-cho, Minami-ward, Nagoya city, which Determined the Kissaten as a Communication & Connection Place

Fumiaki NISHIYAMA

拠点として機能しており、今後笠寺町が新たなまちへ更新していくうえで喫茶店に着目し、その潜在性をまちへと展開してゆくことは、笠寺町にまちとしての新たな価値創生と、新しいつながりの場を構築し得ると考える。

5．プロジェクト

5．1．全体計画

笠寺町を住みよいまちに更新していくために、災害時に建物倒壊可能性の高いエリアと道路閉塞可能性の高い街路から順に道路を拡幅してゆく（図3）。まず本笠寺駅を起点とする、長さ約3 km の観光動線を設定し、更新の必要なエリアと街路に焦点を向けつつ地域に埋もれていた史跡群を顕在化させる。また、各史跡の中間地点に喫茶店と今後更新が予想される木造住宅密集地を位置づける。エリア全体を人が安心して歩ける界隈へと更新するために歩車分離をおこない、エリアの内側に存在する駐車場を、空き家解体で空地となることが見込まれるエリアの外側に順次移してゆく。地域と連続した交流拠点を各史跡の中間に位置づけ計画・運用していくことで、エリア全体を漸次的に活性化させてゆく。まちが更新していくにしたがって、埋もれていた地域の価値が顕在化するとともに、災害にも時にも対応できるすみよいまちとなる。

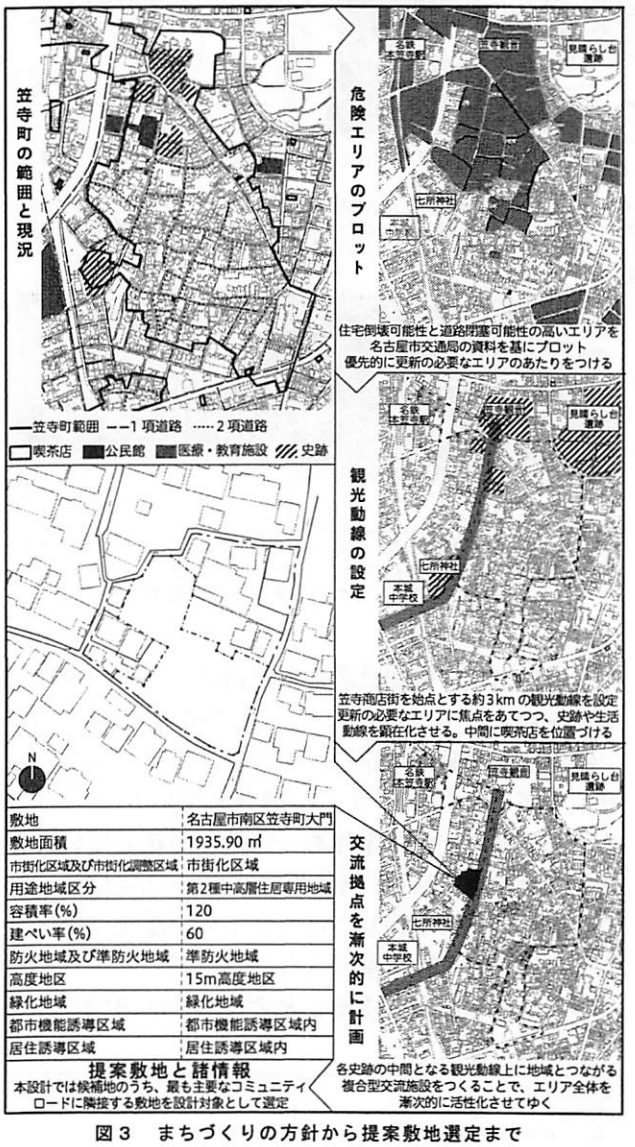


図3　まちづくりの方針から提案敷地選定まで

5．2．施設の運営ガイドライン

地域と連続した交流拠点には4つの場があり、主に4種の人が関わる（図5）。「まちの更新を促進する場」には、笠寺町に存在する木造密集地などの空き家を解体する際に処分される木材をサルベージし、ストック・製材・販売する場を設ける。ゲストハウスやレンタルオフィスなどの「新たな人を受け入れる場」は主に観光客と新規居住者が利用する。コワーキングスペースやイベントスペースなどの「地域が繋がることのできる場」は主に地域住民が利用する。「まちの価値を守る場」は笠寺町近隣の喫茶店経営者が関わり、地域にあるコミュニティとしての喫茶店の顕在化や閉業する喫茶店で処分されてしまう家具類の買い取り・保存・レンタルをおこなう。これらの場を調査で得られたパタンをもとに構成することで、これまで喫茶店でうまれていたコミュニティの形に近い次世代の交流拠点を創出することができる。

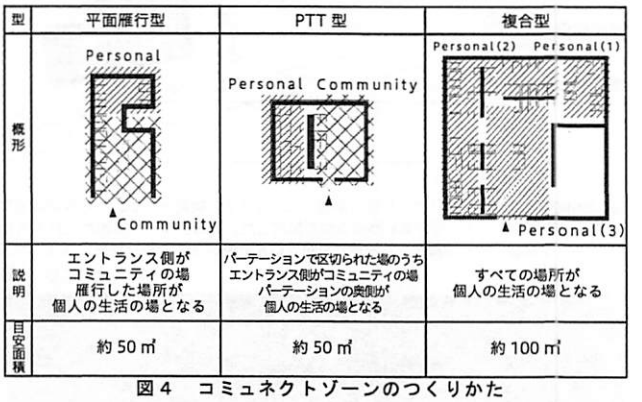


図4　コミュニケトゾーンのつくりかた

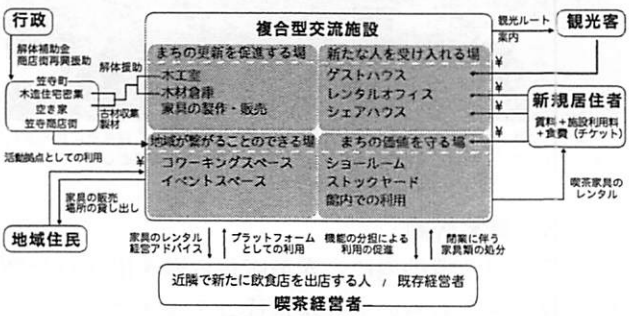
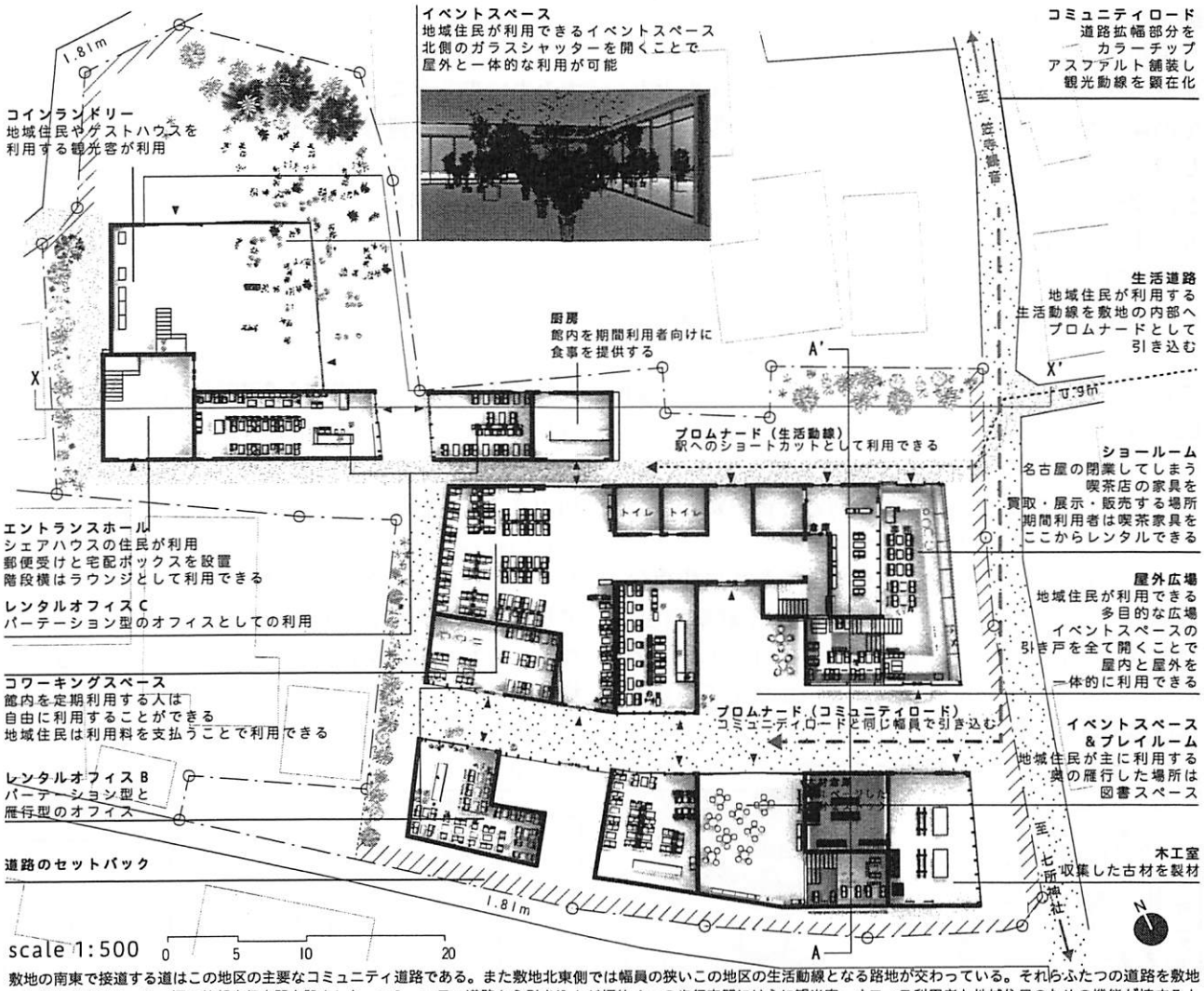


図5　施設の運営ガイドライン

表1　機能ゾーニング

		Personal zone		Community zone	
		床面積　大	床面積　小	床面積　大	床面積　小
2階	流動的	まちコモン（大）	ダイニング ベランダテラス	書庫	
2階	固定的		住戸 キッチン トイレ	ゲストハウス	シャワー ランドリー トイレ
1階	流動的	レンタルオフィス オフィスコモン まちコモン（大）		コワーキングスペース ストックヤード（open） 展示室	書庫
1階	固定的			工房 拠点事務 ストックヤード（close）	まちなかトイレ まちコモン（小）

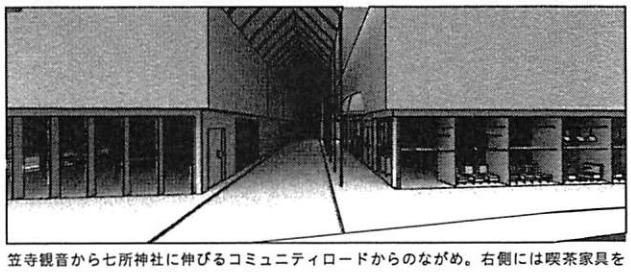


敷地の南東で接道する道はこの地区の主要なコミュニティ道路である。また敷地北東側では幅員の狭いこの地区の生活動線となる路地が交わっている。それらふたつの道路を敷地の内部に引き込み、2つ幅の外部歩行空間を設定した。コミュニティ道路から引き込んだ幅約4mの歩行空間には主に観光客・オフィス利用者と地域住民のための機能が接するようゾーニングし、生活導線となる路地から引き込んだ幅約2mの歩行空間には主に施設管理者と住居利用者のための機能が接するようゾーニングをおこなった

図６　配置図 兼 一階平面図

名古屋市内で閉業してしまう喫茶店の家具を、ショールームであるこの場所に集める。喫茶コミュニティというこの地のライフスタイルをまち行く人に顕在化してゆく

図７　まちの価値を守るショールーム



笠寺観音から七所神社に伸びるコミュニティロードからのながめ。右側には喫茶家具を取り扱う「まちの価値を守る場」がショーケースのように表出する

図８　まちなかのショーケース＆まちを更新する木工室

５．３．建築計画

設定の対象敷地内に、喫茶店から導き出された空間構成要素をもちいて、次世代コミュニネクトモデルとして計画する（図６－１９に概要を示す）。平面型によるコミュニティの場と個人生活の場の分節と、喫茶店を構成している８２の空間パタンに人が繋がる要因としての２３パタンを組み合わせることで、これまでのコミュニティの形に「繋がりの場」としての役割を付加させる。コミュニティの場に人と繋がるための「コミュネクトゾーン」を生み出すことで、これまで地域に点で存在していたコミュニティがつながりをもち、新たな価値や人との出会いをまちに波及させてゆく。

６．結論

本計画では、愛知県名古屋市南区笠寺町の木造密集地を中心として、「点」として存在する喫茶店と史跡群を観光動線で結び、中心部に地域交流拠点を計画することで、エリアに散在していたコミュニティが繋がり、まち全体を一体的に更新していく活性化計画を構想した。具体的には、喫茶店空間によって形成されるつながりの場としての形態を地域の交流拠点に応用し、多種の人々が日常的につながることのできる場を展開することでまちが活気づくための一手法を提案した。

【参考文献】
1) 総務省統計局：経済センサスから分かる日本の「いま」, 2016.5.27
2) 総務省統計局：家計調査通信第520号「喫茶代への支出」, 2017.6.15

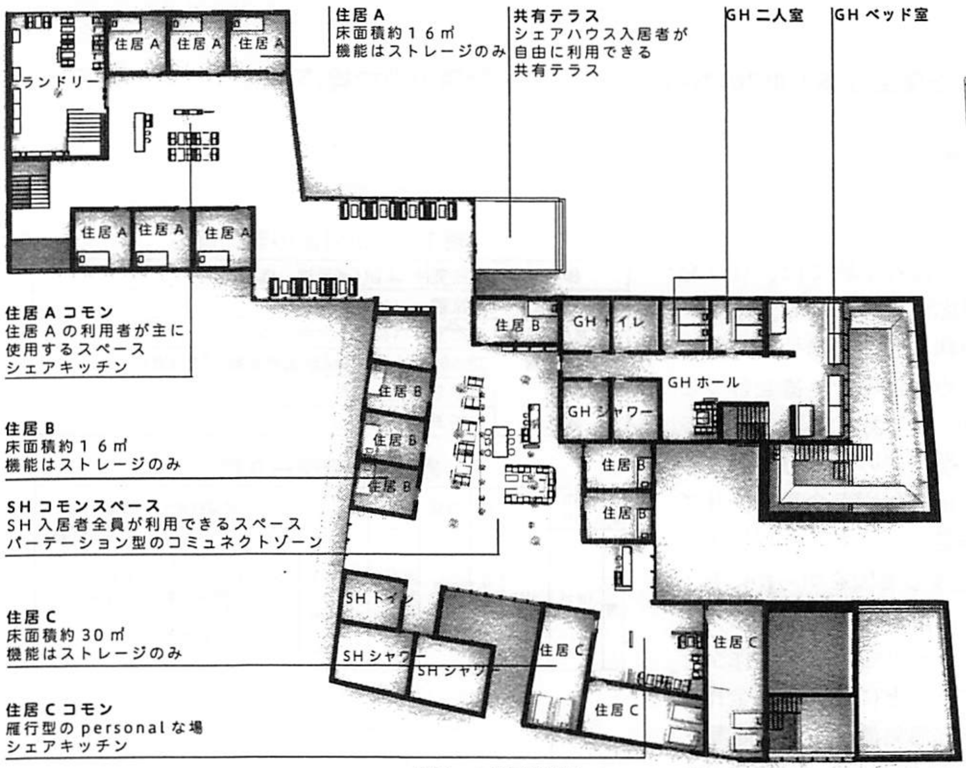
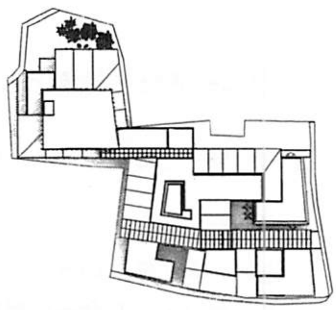


図9　二階平面図

SH：シェアハウス GH：ゲストハウス



敷地周囲からひきこんだコミュニティロードと生活動線を覆うように様々な形で半屋外空間や軒先がのびる

図10　屋根伏図

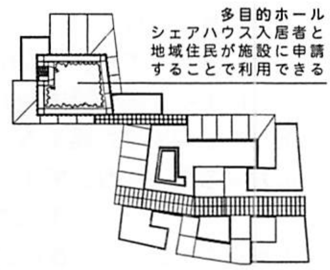
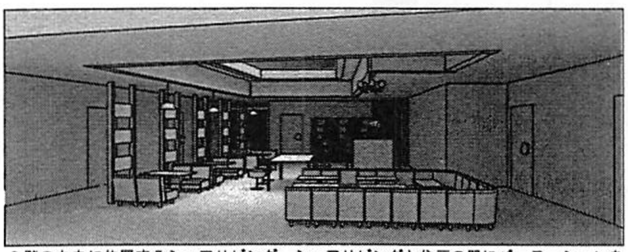


図11　三階平面図



2階の中央に位置するシェアリビング。シェアリビングと住戸の間にパーテーションを設けることで、コミュニティの場とパーソナルな場がシェアハウス内でも連続してゆく

図12　シェアリビング

多目的ホールの周囲をガラスで覆いカーテンを張り巡らせることで環境をコントロールしつつ、ホールでの活動が外側に表出する、まちのちいさなランドマークのような場所

図13　多目的ホール

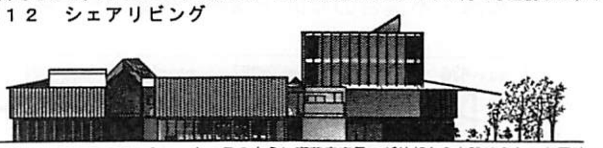


図14　東立面図 ショーケースのように喫茶店家具のが外部からも眺められると同時に歩行者を敷地の内側へ招き入れる外観

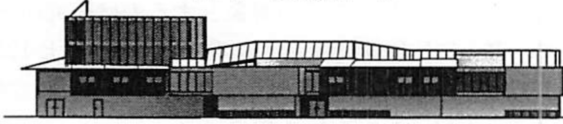


図15　南立面図 建物内部の機能によって屋根形状や外壁の仕上げを変更することで木密エリアの景観に溶け込む群としての外観

図16　A-A'断面図

図17　X-X'断面図

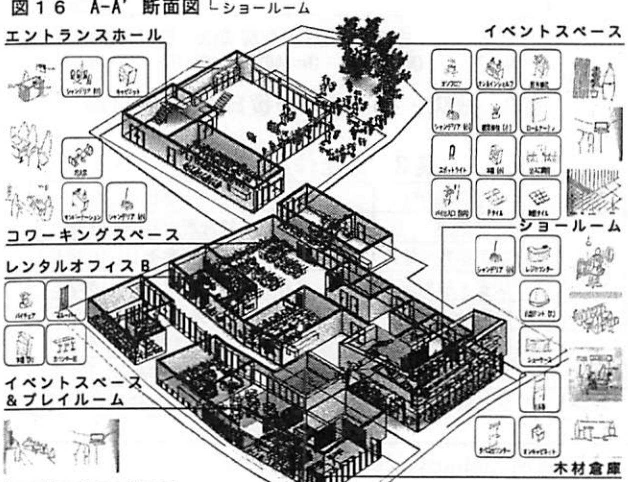


図18　コミュネクトモデルを応用した設計（1階）

図19　コミュネクトモデルを応用した設計（2階）